

●甲斐市洪水ハザードマップとは？

このハザードマップでは、富士川(釜無川)・塩川・鎌田川・貢川・荒川の各流域において「想定される最大規模降雨」が発生し、河川が氾濫した場合に想定される浸水深や避難所などが確認できます。なお、上記河川の流域区間以外や他の河川の氾濫および内水による氾濫などは考慮していません。

ハザードマップの活用方法

- ① 家の位置を確認する** p7～p24
家の位置に印をつけよう。
- ② 周辺の災害の危険性を確認する** p1・p7～p24
洪水や土砂災害の危険性、アンダーパスの位置を確認しましょう。
- ③ 避難所を確認する** p6
最寄りの避難所の名称と位置を確認しよう。
- ④ 避難経路を考える** p7～p24
最寄りの避難所までの安全な避難経路をハザードマップに書き込もう。
- ⑤ 実際に避難所まで歩いてみる** p7～p24
③で決めた避難所まで家族や近所の人と歩いてみよう。
- ⑥ 災害や避難について話し合う** p5・p29～p30
避難フローやマイ・タイムラインを作成して災害に備えよう。
- ⑦ 非常持出品と非常備蓄品を準備しておく** p25
非常持出品・非常備蓄品を参考に必要なものを準備しておこう。

●甲斐市ではどんな災害が起こるの？

甲斐市は甲府盆地北部に位置し、北側が山間部、南側が平野部からなっています。

甲斐市で発生した過去の水害

昭和 34 年 (1959) 昭和 57 年 (1982) 台風

山梨県を大型台風が襲い、富士川(釜無川)の水位が上昇し山梨県全域に被害が発生しました。

平成 12 年 (2000) 秋雨前線

甲府地方気象台観測史上最大の降雨量を記録し、甲斐市内にも大きな被害をもたらしました。

令和 元年 (2019) 台風 19 号

山梨県内で「大雨特別警報」が初めて発表されましたが、甲斐市では幸い、人的被害や住宅への浸水等の被害は発生しませんでした。甲斐市では初めてとなる災害対策本部を設置、一部地域を対象に「避難勧告」を初めて発令し、指定避難所 22 か所全てを開設しました。



平成 12 年 9 月
亀沢地内 (家屋倒壊)



平成 12 年 9 月
獅子平地内 (道路陥没)

北部では土砂災害に注意！

土砂災害の種類

急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象



土石流

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象



地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象



南部では洪水に注意！

洪水の種類

外水氾濫 (洪水)



河川の水位が上昇し堤防を越えたり破堤して、堤防から水があふれ出ること

内水氾濫



河川の水位上昇や多量の降雨により、住宅地等の排水路や側溝の水が排水できなくなりあふれ出ること

●台風や大雨で河川が氾濫したらどのように避難するの？

市町村間を越えた避難 (広域避難) が必要な大規模な災害を想定し、山梨県と県内市町村で広域避難に関する発令基準などを検討しています。



どこへ避難する？
避難所や親戚・知人宅に避難！

甲斐市以外に
広域避難

高台に避難

どこへ避難する？
早期に高台へ避難！

甲斐市では高台に約 10,000 台分の駐車場を用意しています！
浸水の可能性がある場合はまず高台へ！

どの地域が浸水する？

甲斐市の南部
ほとんどが浸水！

避難所も浸水する可能性があります！

どれくらい浸水する？

最大で
5 ～ 10m の浸水

この地図は、甲府市長の承認を得て同市所管の公共測量成果を使用したものである。(まち発第 1632 号)
この地図は、韮崎市長の承認を得て、同市発行の 10,000 分の 1 地形図を複製したものである。(承認番号 韮建第 580 号の 2)
この地図は、南アルプス市長の承認を得て、同市発行の 10,000 分の 1 地形図を複製したものである。(承認番号 南ア都計第 9-17 号)
この地図は、昭和町長の承認を得て、同町発行の 10,000 分の 1 図を複製したものである。(承認番号 令和 3 年 9 月 28 日 昭都第 143 号)
測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R3JHs 591